

バロー売上高3659億円

9月中旬スーパー事業好調

バローホールディングス(HD)が11日発表した2021年9月中旬連結決算は、売上高に相当する営業収益は前年同期比0・4%減の3659億3400万円だった。生鮮食品、総菜販売が好調なスーパーマーケット(SM)事業が業績をけん引しており、今期から会計基準を変更した影響を除けば実質的には増収。一方、SM、ドラッグストア(DS)、ホームセンター(HC)の3事業の店舗の新設、改装費や人件費が増加し、各利益は減益となった。

主力のSM事業は、バロー18店舗を改装した生鮮の強化が奏功し、既存店売上高が前年同期比0・6%増加。スーパーの店舗と子会社の中部フーズが展開する総菜専門店での総菜販売も

好調だった。DS事業は昨年、新型コロナウイルスの感染拡大でマスクや衛生用品の需要が急激に高まった反動で、既存店売上高は3・5%減。電子商取引(EC)の売り上げが伸び、化粧品の販売も回復した。HC事業は、園芸やアウトドア用品の売り上げが

好調を維持したが、巣ごもり需要の反動減に加えて、夏の天候不順の影響を受け、既存店売上高は5・4%減少した。スポーツクラブ事業は、新型コロナウイルスによる休業店舗や休業期間が少なかったことや、会員の維持と休会制度利用者の復帰促進に努め、売上高は7億6600万円増え

た。損益面では販管費の増加で営業、経常利益は減益。スポーツクラブ事業を担う子会社アクトスで繰延税金資産の一部を取り崩し、法人税等調整額1億3000万円を計上したため純利益

も減益となった。上期は新設36店舗、閉鎖19店舗で、グループの9月末の総店舗数は1243店となった。22年3月期は広告費、新規出店費や改装費が増えるとして増収減益を予想する。

県内企業2021年9月中間決算

	売上高	経常損益	純損益	配当
バローHD				
(連) 365,934	(-) 14,044	(-) 6,104	(-) 26.00	
(予) 732,000	25,000	12,000	56.00	

【注】単位は百万円、%、配当は円。(連)は連結、(予)は2022年3月期予想。かっこ内の前年同期比増減率は会計基準変更で単純比較できず。配当の下段は年間配当予想。